

第38回アウトドアカレッジ（ダム部）

設楽ダムの湖面利用を 考えよう

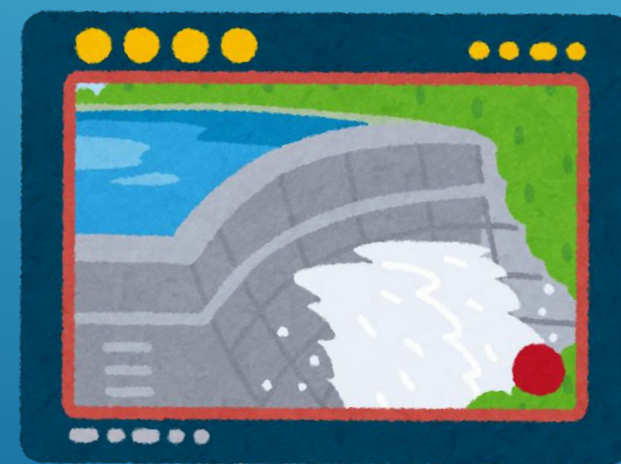
河川空間オープン化先例地視察

令和8年7月11日（土）午前10時～午後3時 岐阜県恵那市上矢作町

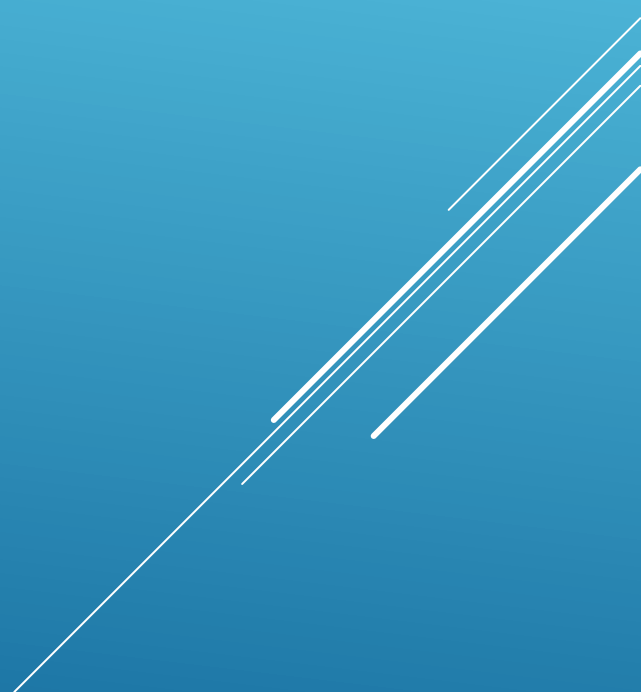
（道の駅ラフォーレ福寿の里、リバーパークかみやはぎ）

本日の内容

1. 今回の視察の目的
2. 当日の行程
3. 各施設の概要
4. 視察報告



1. 今回の目的



1. 今回の視察の目的

(1) 「河川空間のオープン化」の先例地において
どのように地域の合意形成を図ったのか

(2) 民間事業者がどのような活動を行っているか

「ダム湖活用のための協議会の設立」や
「道の駅したら周辺の河川の利活用」の参考にする

2. 当日の行程

時間	行程
1 0 : 0 0	設楽町役場 出発
1 1 : 0 0	ラフォーレ福寿の里 着 ・ 上矢作振興事務所職員から上矢作の取り組みの紹介、現地視察 ・ 先方出席者とのランチミーティング（意見交換会）
1 3 : 1 5	リバーパークかみやはぎ 着 ・ 現地視察 ・ 先方出席者との意見交換会
1 4 : 0 0	リバーパークかみやはぎ出発
1 5 : 0 0	解散

3. 各施設の概要

道の駅 上矢作 ラ・フォーレ福寿の里 概要

1 施設概要

施設の場所：岐阜県恵那市上矢作町の国道257号沿い

開設時期：平成9年（1997年）

運営団体：株式会社福寿の里上矢作

その他：地域農産物の販売、飲食、観光案内、宿泊・体験施設への玄関口としての役割を担っている。
令和元年に大規模リニューアルが実施され、**地域住民と観光客双方に利用される交流拠点**として機能。

2 施設の主な機能

地元農産物・特産品の直売所、レストラン・軽食コーナー、観光情報案内
休憩スペース・ウッドデッキ、駐車場・24時間利用可能なトイレ、EV充電設備
周辺宿泊施設（モンゴル村、ロッジかわせみ、越沢コテージ）への案内拠点

特に**地元産トマトや野菜、五平餅などの加工品・郷土料理を積極的に販売しており、「食」を通じた地域の魅力発信**を行っている。

3. 各施設の概要

3 地域活性化への取組

約200名の地域生産者が農産物を出荷、地元食材を活用したオリジナル商品の開発
トマトを活かしたメニューや加工品の販売、地域住民向け生活用品の販売
弁当配達など地域生活を支えるサービス、観光客と地域住民双方が利用する交流拠点づくり

令和6年度は年間約25万人が来訪し、直売所・売店・食堂を合わせた取扱高は約8,900万円となっており、地域経済を支える重要な施設となっている。

4 リバーパークかみやはぎとの連携

近年は隣接するリバーパークかみやはぎとの連携を強化し、
河川アクティビティ、バーベキュー、キャンプ・宿泊、道の駅での買い物・食事を一体的に楽しめる滞在型観光を推進している。

道の駅を玄関口として河川空間へ誘導することで、地域内での滞在時間や消費額の向上を図る仕組みづくりが進められている

道の駅上矢作ラフォーレ福寿の里



道の駅内の川をつかった魚のつかみどりやイルミネーションといった、イベントを開催するためにオープン化の手続きが行われています。

道の駅 上矢作
ラフォーレ
福寿の里

地のも 感謝祭

7月20日(日)
9:00 ~ 15:00

雨天中止
小雨は一部内容を変更
して開催します

あそぶ
★魚のつかみどり
★魚つり
など

たべる
★五平餅
など

出店者募集中

主催: (株) 福寿の里上矢作
共催: 上矢作地域自治区運営協議会
上矢作自治連合会

お問い合わせ: 道の駅上矢作 ラフォーレ福寿の里
☎0573-48-3366

@FUKUJYU_KAMIYAHAGI



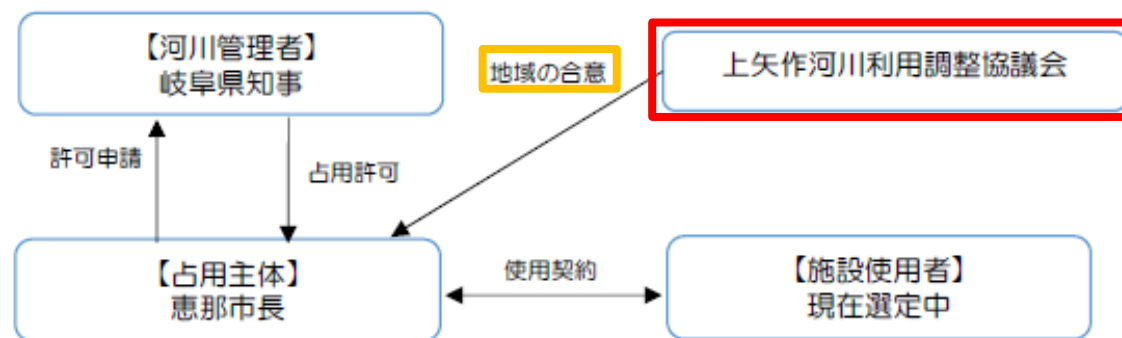
恵那市観光協会HPより

①道の駅上矢作ラフォーレ福寿の里

区域名称	(仮称) 道の駅上矢作ラフォーレ福寿の里周辺地区
概要	美しい森林に囲まれた清流の里上矢作において、森林と河との共生を図り、地域のアイデンティティを高めるとともに、地域の活力の創出を図るため、清流「木之実川」の活用を進め、魅力ある場所にするともに、防災意識の向上を図り、地域活性化の拠点として活用していく。
河川管理者	岐阜県知事
水系名・河川名	1級・矢作川水系・木之実川
指定範囲	モンゴル村下付近～牧場橋付近
指定日	R5.10.25
占用主体	恵那市長
占用施設	1) イベント広場 (魚つかみ、魚釣り場 (大会用) 2) 水遊び場 (パラソル、ターフ、椅子、看板等) 3) 川床 4) 水上コンサート (観覧席、仮設ステージ) 5) イルミネーション 6) ホタル 観賞場 7) フリーマーケット 場
合意方法	恵那市上矢作町河川利用調整協議会
許可期間	準備中
関連URL	上矢作地域自治体運営協議会HP https://kamiyahagi.jp

令和6年7月
河川空間のオープン化活用事例集
(国土交通省水管理・国土保全局作成) より

事業スキーム



恵那市観光協会HPより



S N S による情報発信の様子



3. 各施設の概要

リバーパークかみやはぎ 概要

1 施設概要

施設の場所：岐阜県恵那市上矢作町、上村川河川敷

開設時期：令和7年7月グランドオープン（令和6年10月プレオープン）

運営団体：株式会社安藤林業

その他：地域住民と民間事業者が連携しながら、水辺空間を活用した交流拠点として整備・運営。
釣りやバーベキュー、川遊びなど、自然を楽しむアクティビティを中心に、多世代が利用できる施設となっている。

2 施設の主な機能

エサ釣り・ルアーフィッシングエリア、バーベキュー施設、水遊び・魚のつかみ取り（季節限定）

ドッグラン、芝生広場、コテージ、足湯、ラジコンコース、魚焼きスペース、

RV・車中泊エリア（整備中）

自然環境を活かしながら、「遊ぶ・食べる・泊まる・滞在する」機能を一体的に提供していることが特徴である。

3. 各施設の概要

3 河川空間の活用

リバーパークかみやはぎ周辺は、国の「都市・地域再生等利用区域」に指定されており、河川敷を民間事業者や地域団体が柔軟に活用できる仕組みが整えられている。これにより、

デイキャンプ・BBQ、フィッシングエリア、テントサウナ、キッチンカー・軽トラ市
季節イベント、芝生広場、駐車場、水遊び場

など、多様な利用が可能となっている。区域の利用調整は「上矢作町河川利用調整協議会」が担い、地域・行政・河川管理者が連携して運営している。

4 地域活性化への取組

施設単体ではなく、周辺施設との連携による地域全体の周遊を意識した取組が進められている。

道の駅「上矢作ラ・フォーレ福寿の里」、コテージ、河川公園、地域イベント
水辺イベント、フリーマーケット、地域住民参加型イベント

などを組み合わせることで、交流人口の拡大と地域経済への波及を図っている。

② リバーパークかみやはぎ



2024年に恵那市の市政20周年を記念して整備された地域公園。釣り堀や足湯、BBQ、トランポリンなどが設置されています。



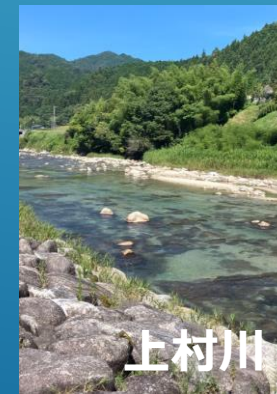
釣り堀



トランポリン



足湯



上村川



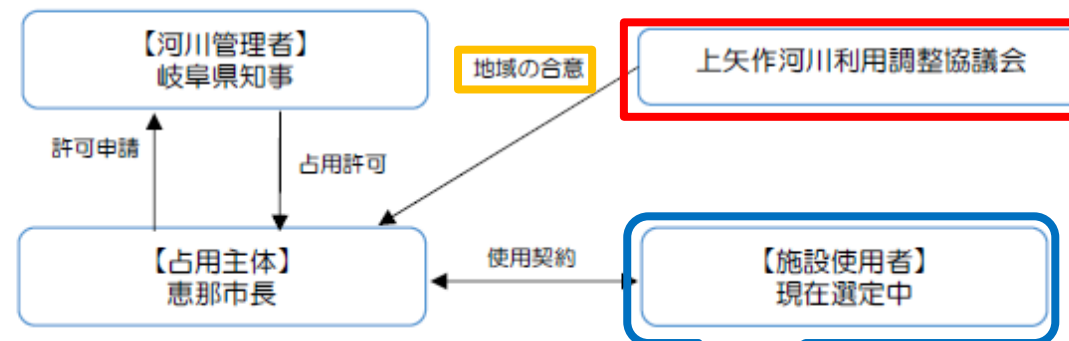
BBQ

② リバーパークかみやはぎ

区域名称	(仮称) 上村川河川公園周辺地区	
概要	美しい森林に囲まれた清流の里上矢作において、森林と河との共生を図り、地域のアイデンティティを高めるとともに、地域の活力の創出を図るため、清流「上村川」の活用を進め、魅力ある場所にするとともに、防災意識の向上を図り、地域活性化の拠点として活用していく。	
河川管理者	岐阜県知事	
水系名・河川名	1級・矢作川水系・上村川	
指定範囲	野口橋付近～越沢橋付近	
指定日	R5.10.25	
占用主体	恵那市長	
占用施設	1) 水辺コンサート(仮設ステージ、観覧席) 2) デイキャンプ、BBQ(テント、ターフ、パラソル、椅子、看板等) 3) オートキャンプ 4) テントサウナ 5) 軽トラ市 6) 季節のイベント(キッチンカー、看板、椅子、パラソル、ターフ、イルミネーション等) 7) 駐車場(ロープ、テント、看板) 8) 水遊び場(ロープ、パラソル、看板) 9) 芝生広場	
合意方法	恵那市上矢作町河川利用調整協議会	
許可期間	準備中	
関連URL	上矢作地域自治区運営協議会HP https://kamiyahagi.jp	

令和6年7月
河川空間のオープン化活用事例集
(国土交通省水管理・国土保全局作成) より

事業スキーム



株式会社 安藤林業

リバーパークかみやはぎの管理・運営は地元の林業業者さんが行っています。

S N S による情報発信の様子



【参考】株式会社安藤林業の取り組み



持続可能な里山環境を目指して広葉樹を植える体験イベント「いのちの山プロジェクト 越沢もみじ計画」が3月28日（土）、恵那市上矢作町越沢地区の山林および「リバーパーク かみやはぎ」で開かれます。参加費1000円、高校生以下無料。定員先着200人。

戦後に植林されたスギ・ヒノキの荒廃が課題となっていた同地区で7年前、安藤林業（同町漆原）の安藤雅人代表（45）が「いのちの山プロジェクト」を立ち上げ。山主の承諾を得て自費で伐採し、広葉樹を植える活動を始めました。

当初はスギ・ヒノキ以外の植林に補助金が出ず、苦勞の連続でしたが、次第に安藤さんの思いに賛同する企業や仲間が増え、行政にも認められて、子どもも楽しめる植林体験&レクリエーションイベントに発展。延べ1万本近くを植樹し、「日照時間が長くなった」と地域住民にも喜ばれています。

当日は午前8時30分、安藤林業に集合して山林へ移動し、モミジやコナラなど8種類約400本を植林。その後、昨年市が開設し、安藤林業が管理運営を担う地域公園「リバーパーク かみやはぎ」に舞台を移し、昼食は、地元・石川農園のトマトを使ったトマトカレーや田舎みそ仕立ての豚汁、五平餅などが並び、玄米粉のバウムクーヘンやチョコバナナなどのデザートも用意。午後はキャンプファイヤーに点火し、焼き物（ペンダント作り）や木登り、丸太割り体験のほか、魚釣り（有料）、ドッグラン（同）なども楽しめます。安藤さんは「年度内に2300本の植樹を予定。木育・食育・火育を一度に体験できる貴重な機会ですので、ぜひ親子で、仲間と“100年先の森づくり”に参加してほしい」と呼び掛けています。（「けいほううえぶ」より 2026年3月6日掲載）

4. 視察報告

(1) なぜ、上矢作地域でミズベリングに取り組むことになったのか？

地域の悩み

人口が減少していく中で、「川」と「山」しかない
それを使ってどうやって地域活性化に取り組もうか

「ミズベリング」の活用

行政主導では
ない動き

地域で協力しながら「都市・地域等再生利用区域」
に向けた手続きを実施

令和5年10月25日に上村川、木之実川を「都市・地域再生等利用区域」に指定

4. 視察報告

(2) 手続きまでの流れ

- ・ ミズベリング先進地（中津川市付知町）の視察・勉強会を実施
- ・ 準備検討委員会を複数回開催（令和5年に3回）
- ・ ワークショップ（約60名参加）を開催
ファシリテーター：水辺総研 岩本氏
アドバイザー：国土交通省 水管理・国土保全局
河川環境課 河川環境教育係長 坂本氏

＜ワークショップで出た課題＞

- ・ 河川敷をもっと有効活用したい
- ・ 夏季のごみ対策
- ・ 公園機能の不足
- ・ 維持管理体制の構築

- ・ **河川利用調整協議会**を設立
- ・ 令和5年9月に県へ指定申請
- ・ **令和5年10月「都市・地域再生等利用区域」** 指定

令和3年12月から区域指定に向けた取組を始めて**令和5年10月**に指定
→約2年
(県へ提出する書類の素案ができるまでは1年半程度)

4. 視察報告

(3) 道の駅ラ・フォーレ福寿の里の運営状況

① 運営状況

実施している主なイベント

鯉のぼりイベント、魚つかみ、宝探しイベント、感謝祭、周年祭

② 採算状況

河川イベント単体では収支が厳しいものもある。

→ 運営団体(株)福寿の里は黒字

集客による道の駅全体への波及効果を重視。

河川利用を地域全体の活性化につなげることを重視。

③ 課題

施設の老朽化、
継続的な集客、
維持管理費の確保



4. 視察報告

(4) リバーパークかみやはぎの運営状況

① 事業開始の経緯

かつてグラウンド・ゴルフ場があった場所。東海豪雨により被災、その後は草地となっていた
→ 地元住民が長年ボランティアで草刈りなど維持管理
→ 継続的な管理には限界

「地域資源を活用し、収益を得ながら維持管理できる仕組みが必要」と安藤社長が考えていたところミズベリングの話があり河川空間活用を提案した。

地域連合会や関係者から賛同を得て、発起人の安藤林業が管理運営を担うこととなった。
安藤社長が所属する観光協会で運営することは難しいため、**同社が新たな部門を立ち上げ民間主体で運営する体制を構築**した。

② 採算状況

来場者は家族連れが中心で、一人で来場する利用者は少ない。
釣り、魚つかみ、バーベキューなど体験型コンテンツを中心に営業。
釣り堀はルアーメインとすることで通年で集客ができる体制を構築している。
周年イベントや季節イベントを継続的に開催し、リピーターの確保に努めている。
開始から1年目であるが、ある程度**黒字化の見通しが立ちつつある**とのこと。

4. 視察報告

(4) リバーパークかみやはぎの運営状況

③ 施設整備の工夫

河川区域であることを踏まえた整備方法について説明があった。

河川区域では基礎構造物の設置が制限されるため、撤去可能な構造を基本としている。

ドッグラン、遊具、ウッドデッキ等も移設・撤去可能な仕様として整備。

洪水時にはスタッフが半日程度で撤去できる体制を整えている。

釣った魚は7匹まで1匹500円で買うことができ
その場で焼いて食べることができる

→区域内に調理場を建設することができないという
制約を踏まえ「自分たちで炭火を使って焼く」
というスタイルにした。



4. 視察報告

(4) リバーパークかみやはぎの運営状況

④ 「いのちの山プロジェクト」について

山林の木が育ちすぎてしまったことで、国道257号城山トンネルを抜けたあたりに日陰ができ、冬季の路面凍結など様々な問題が発生しているという**地元からのお悩み**があった。

→ 安藤社長と石川トマト農園（上矢作）が**自費を持ち出して植林を開始**

1年目・・・獣害でほぼ全滅

2年目・・・柵等を設置（約200万円の出費）

自費を持ち出しし続けることに関するお悩みを、安藤社長の知り合いでもある(株)バローの社長夫人に持ちかけたところ、サポートをしてもらえることになった

→ **現在は(株)バローの支援（毎年200万円）も受けながら、年間2,000本超の広葉樹を植林**

現在までは10,000本超の植林を実施。香嵐渓を超える紅葉の山を目指している

4. 視察報告

(5) 今回のまとめ

- ① 河川区域を活用した地域活性化（ミズベリング）のため、地域が主体となり地域・行政・河川管理者が連携しながら「都市・地域再生等利用区域」の指定を行った。
- ② 河川区域の制約を様々なアイデアで克服し、収益につなげる仕組みづくりが進められていた。
- ③ 協議会では地域のベテラン世代（区域指定に動いた人たち）が中心となり、道の駅やリバーパークの運営は若い世代の民間事業者が担うなど、世代を超えた連携による地域づくりが進められていた。

設楽町においても、設楽ダム完成後のダム湖周辺や道の駅したら周辺の河川空間の活用に向け、地域・民間事業者・行政が連携した体制づくりを進めるとともに、今回の視察で得られた知見を今後の協議会設立や施設整備の検討に活かしていく。